

社会資本総合整備計画 社会資本整備総合交付金

令和07年01月24日

計画の名称	秦野駅北口周辺地区のにぎわい創造											
計画の期間	令和07年度 ~ 令和11年度 (5年間)										重点配分対象の該当	
交付対象	秦野市											
計画の目標	<p>秦野駅北口周辺地区は、商業の中心地として発展してきたが、人口減少、高齢化及び商店の衰退による空洞化が進んでいる。平成22年度から前面の県道705号（堀山下秦野停車場）の拡幅整備が進められているが、民間事業者による商業再建が困難なため、中心市街地としての魅力が低下し、現在では持続可能な都市形成を図るうえで大きな課題を抱えている。</p> <p>そのため、この地域に不足していた女性と子ども、若者の居場所を創出するとともに、知的活動による創造拠点として、自身の成長や記憶によって愛着を育む魅力ある多世代交流拠点を整備することにより、にぎわい創造を図り、中心市街地の活性化を推進する。</p>											
全体事業費（百万円）	合計（A+B+C+D）	4,000	A	4,000	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C+D)	0 %

番号	計画の成果目標（定量的指標）			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値 R4年度	中間目標値	最終目標値 R11年度末
1	空洞化した中心市街地のにぎわいを創造するため、まちなかにおいて民間団体、企業及び行政などが実施した交流機会の創出に資する事業数を計測する。 拠点周辺における民間団体、企業及び行政による交流創出事業数（商業・生涯学習・若者イベント・地域自治・まちづくり・工業・農業・観光など） 1年間に拠点周辺で開催された民間、企業及び行政主催による様々な交流活動の事業数を集計	20回	回	59回
2	拠点周辺における滞在可能な空間における人々の行動種類（アクティビティ数）を計測し、そのアクティビティ数の増加量からまちなかのにぎわいの変化を計測する。 拠点周辺における人の行動・余暇活動などの行動種類数（アクティビティ数） 計測時間3分の間に行動や滞在が見られたアクティビティ数を計測し定時回数から平均値を算出	6種類	種類	11種類
3	中心市街地の回遊性向上のため、拠点前面の秦野駅前通りの平日1日当たりの歩行者交通量（人）を計測する。 拠点前面の秦野駅前通りの平日1日（14h）当たりの歩行者交通量（人） 基準値：令和4年：2,929人×（1+トレンド7%×事業効果1.59（社会実験実績）） 平日計測時間6時から20時までにおける歩行者通行量（累積）を計測	2929人	人	3255人

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靱化を含む	-	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-
-----	-----------	---	----------	---	----------	---	------------	---	------------	---	-----------	---

A 基幹事業																						
基幹事業(大)	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名(事業箇所)	事業内容(延長・面積等)	市区町村名/港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費(百万円)	費用便益比	個別施設計画策定状況			
												R07	R08	R09	R10	R11						
一体的に実施することにより期待される効果																						
備考																						
市街地整備事業	A13-001	市街地	一般	秦野市	直接	秦野市	-	-	暮らし・にぎわい再生事業(秦野駅北口周辺地区)	多世代交流施設(事業区域0.4ha)	秦野市						4,000	1.062	未策定			
												小計						4,000				
											合計						4,000					